

第20回金融教育に関する実践報告コンクール

## 優秀賞

# 消費者としての自覚をもち、 理想の消費生活を創造する生徒の育成

～学校・地域・社会と連携した金融教育～

愛知県・長久手市立南中学校 教諭 松本 咲子

知るぽると  
www.shiruporuto.jp

© 金融広報中央委員会 2023

## 1. はじめに

---

明治時代から約140年間続いていた成人年齢が改正され、2022年4月1日から18歳に引き下げられた。改正の決定や施行された時、新聞やインターネットでは、その改正内容や若者に注意を呼び掛ける記事が多く見られた<sup>1)</sup>。大人になることを不安に感じていたり、何も感じなかったりする18歳が多くいるというニュース<sup>2)</sup>から、責任感や消費者としての意識が大人になって急に高まるわけではないことがわかる。複雑なキャッシュレスによる支払い、ローンの仕組み、インターネットによる契約など、実際の生活で経験しながら理解することが多いが、知識や経験が乏しい若い世代の消費者トラブルが年々増えていることを考えると、義務教育から消費生活についての正しい知識と判断力を身に付けることが必要である。

## 2. 中学校の実態

---

中学校技術・家庭科（家庭分野）で学ぶ「私たちの消費生活と環境」では、「消費生活・環境に関する知識及び技術を身に付け、これからの生活を展望して、身近な消費生活と環境についての課題を解決する力を養い、身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する」と記してある<sup>3)</sup>。しかし、収支を親に頼っている中学生にとって、直接的な支払いは小遣い程度であり、複雑な消費の仕組みや将来の自分の消費生活をイメージしにくい。事前アンケート、「将来理想の消費生活ができていますか」とは、わからないと答えた生徒が全体の3分の1以上いた。（資料1）この単元の授業時数は3年間で約6時間と少なく、語句や制度を知識として理解していただくだけの授業となりやすい。また、被服分野や食物分野のように実習や体験活動を取り入れることが難しく、課題の解決や創造しようとする実践的な活動にまで至らない。

## 3. 実践の方針

---

時事と関連させながら学習課題を提示したり、シミュレーション活動をしたりすることで、将来の消費生活を想像しながら思考力と判断力を身に付ける。時間数の確保と多角的な考え方で課題を解決するために他教科と連携し、得た知識を活用しながら理解を深める。修学旅行の小遣い計画と買い物による契約、消費生活センターと連携したインターネット通販の契約を体験することで実践力を身に付ける。単元終了後には、消費者としての自覚や知識の高まりを実感できるように、各授業の最後に理想の消費生活の一つずつ熊手チャートで作成し、蓄積していく。自らに必要な知識、判断力、解決力を身に付け、現在及び将来のよりよい消費生活を創造する生徒を育成する実践構造を立てた。（資料2）

## 4. 検証の方法

---

本実践は、3年生290名8クラスでの授業、学校行事、アンケート結果、ワークシートによる振り返りから検証を行う。また、消費生活の考えの変移を検証するために、事前アンケートで大人になることが不安だと回答した生徒Aを抽出生徒とした。（資料3）

## 5. 実践報告

---

**【第1時】** 導入として、2022年4月から成人年齢が引き下げられたこと<sup>1)</sup>を取り上げると、ほとんどの生徒が知っていた。その理由を考えさせると「少子高齢化で社会に関わる人を増やしたい」「諸外国が18歳の国が多いから合わせた」などの意見が出た。次に18歳でできることできないことを、タブレット端末を使って分類させた。飲酒や選挙権などは分類できていたが、クレジットカードやローン契約はわからない様子だった。「大人になるのは楽しみですか」と聞くと、不安と答えた生徒が多かった。NHK調査による18歳のアンケート結果でも不安と答えた人が約6割いたこと<sup>2)</sup>を伝え、何が不安なのか考えさせた。「大人でも知識が乏しい」、「契約できるが増えるがトラブルも増えそう」、「責任が重くなる」と意見が出た。契約の仕組みや契約によって生じる責任や権利、未成年者取消権についての調べ学習をした。日常生活で行っていたはずの契約だが、複雑さや責任の重さを感じたようだった。（資料4）

**【第2時】** 事前アンケートで、将来の消費生活で家計をイメージできないと回答した生徒の意見をスクリーンに提示すると、

うなずく生徒の姿が見られた。(資料5) 今日のため「将来の家計管理シミュレーションをしよう」をスクリーンに映すと「楽しそう」という声が聞こえた。はじめに、食費、住居費など、お金をかけた項目や節約したい項目を記録させた。1か月の希望預貯金額の項目では、「なんで預貯金が必要なの?」、「預貯金ってどのくらいが普通?」などの疑問の声が聞こえた。社会の教科書<sup>4)</sup>に記載されているそれぞれの支出項目の平均支出額と自分の理想の生活を合わせながら、タブレット端末に1か月の支出の予定金額を入力させた。雑費、生命保険、自動車については説明してから金額を入力させた。非消費支出の金額を伝えると、「税金高い」、「社会保険料って何?」、「40万超えた」と、一斉に疑問や自分の気持ちを表現し始めた。収入は2020年の平均年収である433万から、1か月30万+賞与で設定した<sup>5)</sup>。ほとんどの生徒が預貯金にマイナスの表示が見られた。(資料6) 預貯金についてイメージがわからない生徒もいたので、物価の上昇に関する新聞記事<sup>6)</sup>を紹介した。将来の生活をイメージすることで自分らしい生き方を考えるきっかけとなった。(資料7)

**【第3時】** 2021年9月にデジタル庁ができたことから、「進キャッシュレス化」のテーマで授業を始めた。8枚のカード(商品券、交通系ICカード、図書カード、共通ポイントカード、薬局のポイントカード、デビットカード、クレジットカード、キャッシュカード)の写真をタブレット端末で種類ごとに分類をさせた。分類がうまくできないだけでなくデビットカードやキャッシュカードを知らない生徒が多かった。「契約自由の原則で消費者として購入場所や支払い方法を選ぶことができるが、複雑な支払い方法を知らなくて選べない」と、生徒がつぶやいた。販売方法として店舗販売と無店舗販売、支払い方法として前払い、即時払い、後払いのそれぞれのメリットとデメリットを班で話し合った。クレジットカード、デビットカード、スマホ決済の仕組み、2つの機能がついているカードを紹介すると、デジタル化により消費生活も商品やお金の動きが見えない契約や複雑な仕組みに不安を感じる生徒が多くみられた。(資料8)

**【第4時】** 家計管理シミュレーションや前時の授業を生かして、修学旅行のお小遣いの計画を立てさせた。前時の授業の学びを生かして、予備費を設ける生徒もいた。自分にとって幸せなお金の遣い方に意見が飛び交った。(資料9) 修学旅行の夜に、実際に使用した項目や金額を記録させることで、自分の消費生活への考えや傾向がわかったようだった。

**【第5時】** 実際の金融機関のローンチラシ(マイカーローン、教育ローン、カードローン)を導入して授業を始めた。金額が異なる4つの車と、金利が異なる4つの金融機関を設定し、将来ほしい車をローン支払いする課題を与えた。1年後の利息や10年後の総額を計算し、一次関数の式をもとめてからグラフを作成させた。なかなか計算できず、学校の学びを生活に生かすことの難しさを感じた。次に、タブレット端末で金利や購入価格を変えて利息や総額を確認させた。価格や金利によって利息の大きさが違うこと、簡単に借りられる設定の方が、支払い総額が大きくなることに驚いていた。(資料10) 簡単に借りられるローンのデメリットに気付き、社会的信頼の必要性を実感したようだった。新聞記事「18歳ローン割れる銀行対応」<sup>7)</sup>を提示し、実際には18歳でカードローンができない金融機関があることを伝えた。18歳に成人年齢が引き下げられたが、支払い能力や知識や経験のなさが、若い人の消費者トラブルにつながっていることに気付き始めた。「具体的にどんなトラブルがあるのか知りたい」と声が上がり、関心の高まりを感じた。

**【第6時】** 消費生活センターの相談員による授業を行った。授業前に配布したクレジットカードのレプリカを使って、シミュレーション用の4つの通販サイトから、「親へのプレゼント」など、テーマに沿って10分間で買い物をした。(写真1)クレジットカードの番号、有効期限、名前、セキュリティコードを入力すると、番号やセキュリティコードは人によって違うことや、少しでも入力が違うと使えないことに気付いた。購入後、「注文して1か月たつが、注文した商品が届かない。サイトに連絡したが返事がない。どうする?」と、相談員から問題提起がされた。話し合いの中に「188に電話する」の音があがり、相談のシミュレーションを行った。購入した通販サイトの規約を確認すると、規約を読んでいない生徒がほとんどであった。規約の記載がどのくらい多いか、大事なことはどこに書かれているかをプリントアウトした資料で確認した。(写真2) 授業の最後にはたくさんの質問が出たことから、知識や情報を得ようとする動きが見られるようになった。(資料12)

**【第7時】** 前時の振り返りから始め、消費生活センターや188、クーリング・オフ制度など、トラブルにあった時の対応について確認した。「こんな被害もあるよ」と、調べたことを発言する生徒もいた。日時や条件が異なる5つの契約を提示し、クーリング・オフ制度が使えるかどうか話し合った。「クーリング・オフ制度が使える場面が少ない」「条件が厳しすぎる」と声が聞こえた。「トラブルの解決方法を知るだけでなく、トラブルにならないように消費者として自覚をもつことが大切なのではないか」と、話した。消費者の8つの権利と5つの責任を行使していくことで、社会によい商品が増え、よりよい消費生活ができるようになることに気付いたようだった。(資料13) 授業の最後に、「消費者の5つの責任の中で、『社会的弱者に配慮する責任』の『社会的弱者』とは誰か」と問うと、「高齢者や子ども」と意見がでた。『社会的弱者に配慮する責任』や『環境に配慮する責任』についてより理解を深めるために、今回は道徳を行うことを伝えた。

**【第8時】** ケニア在住のアパレルブランド「RAHA KENYA」の河野理恵代表によるオンライン講話を行った。自己紹介とケニアの生活や平均収入などの説明後、「見た目も品質も一緒の洋服、あなたならどちらを選びますか」と問われた。

スライドには「①1,000円のTシャツ、②3,000円のTシャツ」と表示された。生徒の全員が①に手を挙げた。次に「①1,000円のTシャツ…月収3,000円支給 強制労働、②3,000円のTシャツ…月収20,000円で子どもが学校に行ける環境づくりをしている会社が販売」と表示され、同じ質問がされた。今度は②に手を挙げる生徒が過半数を超えた。2つ目の質問は、「①1つ200円のチョコレートで農業は使わず6年かけてできた、②3つで100円のチョコレート、基準値を超える農業を使用し、森林と人に害を及ぼして2年でできた」であった。①に手を挙げた生徒が多かった。「値段の安い高いには訳がある」とテーマである言葉が表示された。広まる貧富の差、十分な教育が受けられない子どもたち、医療体制の不安定と、アパレル廃棄問題について写真を使って説明された。3つ目の質問は、「①自分で決めた価格、②相手に聞いた価格、③相場の価格」と表示され、③がフェアトレードの考え方であることが伝えられた。最後に「人間と人間で対等な立場で取引をしている。交渉する際、発展の具合や国籍や人種を気にしていない」と河野さんは自身の考えを述べた。質問タイムでの生徒の質問内容からも消費生活への考えの広がりが見られた。(写真3)(資料14)

**【第9時】** 道徳のテーマ「値段の安い、高いには訳がある」とスクリーンに表示して授業を始めた。この言葉の意味がわかるか聞くと、うなずく生徒が多かった。次に、砂漠に山になっている衣服の廃棄の写真を映した<sup>8)</sup>。ごみの排出量<sup>9)</sup>、家庭ごみの容器梱包が占める割合<sup>10)</sup>、世界の二酸化炭素排出量<sup>11)</sup>、フードマイレージ<sup>12)</sup>のグラフを次々に提示した。どれも過年度の学習の中で取り上げた資料だったので、よく理解できている様子だった。「理想の消費生活とは何か。自分自身だけではなく、社会の一員としてどのようにあるべきか。」と問いかけ、自分の理想の消費生活についての考えを今までの熊手チャートを参考にまとめさせると、具体的に創造する生徒が多く見られた。

## 6. 実践の成果と課題

生徒Aは授業ごとに将来への感情の揺れが見られたが、授業を重ねるうちに理想の消費生活が具体化していき、自分がやるべきことや大切なことがしっかりと創造できてきた。(資料15、16)はじめは、成人になることへの不安が見られたが、シミュレーション活動から先を見通すことや社会に目を向けて広い視野をもつこと、手間をかけて契約をすることが自立した消費者になるために必要だと考えるようになったことから、これらの実践的な取り組みは効果的であったと判断できる。(資料17) また、第1時では、将来理想の消費生活が「できる」又は「どちらかというところできる」と回答した生徒が86人であったのに対して、第9時には251人の生徒が将来理想の消費生活が「できる」又は「どちらかというところできる」と回答したことから、自らに必要な知識、判断力、解決力を身に付け、消費者としての自覚が高まった実践であったといえる。(資料18、19) 今回の実践では、どのシミュレーションでも多くの生徒が失敗したり、理想とは違う結果になったりした。この失敗や気付きを学校で経験することが消費者としての自覚を高め、自立した消費者を育てるのではないだろうか。まずは大人が抱える生活の失敗や葛藤、そして社会の問題に教師が関心をもち、生徒につないでいくことが現在及び将来の消費生活を主体的に創造する生徒を育てるのだとわかった。これからも家庭、社会と関連した実践的な金融教育を追求していきたい。

注1) 中日新聞 2018年3月14日朝刊 「18歳成人 22年施行へ」

中日新聞 2022年4月1日朝刊 「18歳成人の流儀」

注2) NHK政治マガジン 2019年3月15日 「成人年齢引き下げ“不安を感じる”若者60%超」

URL <https://www.nhk.or.jp/politics/articles/statement/15453.html>

注3) 文部科学省 中学校学習指導要領 技術・家庭科 家庭分野 平成29年度告示

注4) 東京書籍「新しい社会 公民」2021年2月、P131

注5) 国税庁 令和2年分 民間給与実態統計調査

URL <https://www.nta.go.jp/publication/statistics/kokuzeicho/minkan/gaiyou/2020.htm>

注6) 中日新聞 2022年5月5日朝刊 「物価上昇相次ぎ備え意識高まる」

中日新聞 2022年6月2日朝刊 「食品値上げ1万品超」

注7) 中日新聞 2022年4月1日朝刊 「18歳ローン 割れる銀行対応」

注8) 読売新聞オンライン 2022年3月23日 「ファストファッションも影響、砂漠に広がる『衣類の墓場』」

URL <https://www.yomiuri.co.jp/world/20220321-OYT1T50148/>

注9) 東京書籍「新しい技術・家庭(家庭分野)」2021年2月、P204

注10) 前掲9) P97

注11) 前掲9) P202

注12) 前掲9) P98

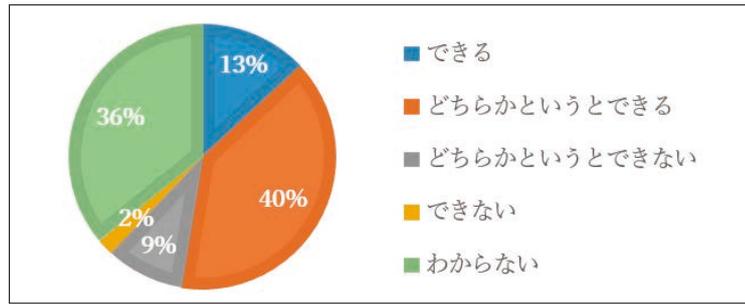
指導計画書

時数	授業展開	指導内容	学習内容
1	<p>○消費者としての自覚 【技術・家庭（家庭分野）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成人年齢の改正について確認する。</li> <li>・18歳でできることできないことを分類する</li> <li>・契約について調べる。</li> <li>・未成年者の契約と成人者の契約の違いについて考える。</li> <li>・消費生活で不安なこと、知りたいことをまとめる。</li> <li>・理想の消費生活を考え、熊手チャートを作成する。</li> </ul> <p>【時事資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事「18歳成人 22年施行へ」<sup>1)</sup></li> <li>・新聞記事「18歳成人の流儀」<sup>1)</sup></li> <li>・NHK政治マガジン「成人年齢引き下げ“不安感じる”若者の60%超」<sup>2)</sup></li> </ul> <p>私は理想の消費生活が送れるかな</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「成人年齢改正」を提示することで、社会の大きな動きが自分にとって関わりがあることを実感させる。</li> <li>・成人になるのが具体的に3～4年後と示すことで、消費者としての自覚と、学習への関心を高めさせる。</li> <li>・未成年者でも契約はできることや、消費者の責任があることを理解させ、成人者の契約ではその責任がより重くなることを実感させる。</li> <li>・自分の理想の消費生活について言語化させることでイメージを具体化させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費生活</li> <li>・消費者</li> <li>・物資とサービス</li> <li>・契約</li> <li>・未成年者の契約</li> <li>・契約自由の原則</li> </ul> <p>【関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会：契約と消費生活</li> </ul>
2	<p>○計画的な金銭管理シミュレーション 【総合・キャリア教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の家計管理シミュレーションをする。</li> <li>・収入と支出について知る。</li> <li>・日本の平均収入や物価の変動を知る。</li> <li>・お金の機能について理解する。</li> <li>・理想の消費生活を考え、熊手チャートを作成する。</li> </ul> <p>【時事資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国税庁「令和2年分 民間給与実態統計調査」<sup>5)</sup></li> <li>・新聞記事「物価上昇相次ぎ備え意識高まる」<sup>6)</sup></li> <li>・新聞記事「食品値上げ1万品超」<sup>6)</sup></li> </ul> <p>お金って大切だな。もっと大切に使いたいな</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来の消費生活をイメージすることで、自分の生活スタイルの特徴や傾向に気付かせる。</li> <li>・生活にどのくらいお金が必要か知るために理想の生活を金銭で具体化させる。</li> <li>・タブレット端末を活用して日本の平均収入と理想の支出がグラフで並べられるようにすることで、金銭管理や計画の必要性を実感させる。</li> <li>・将来理想の生活ができるようになるために、どのような生き方をすればよいか創造させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金銭の管理</li> <li>・収入と支出</li> <li>・実収入</li> <li>・可処分所得</li> <li>・非消費支出</li> <li>・お金の機能</li> </ul> <p>【関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路：私らしい生き方</li> </ul>
3	<p>○進むキャッシュレス化 【技術・家庭（家庭分野）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル庁がつけられた理由やキャッシュレス化が進んだ理由を考える。</li> <li>・タブレット端末でカードの種類を分類する。</li> <li>・クレジットカードやデビットカードなどの3者間契約の仕組みを知る。</li> <li>・電子マネーの仕組みを知る。</li> <li>・それぞれの支払い方法のメリットデメリットを考えたどのような場面でどんな支払い方法をするよいか考える。</li> </ul> <p>【時事情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル庁発足</li> </ul> <p>クレジットやローンについてもっと知りたいな</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜキャッシュレス化が進んだのかを考えさせることで、社会への関心を高めさせる。</li> <li>・身近なカードを活用して種類を分類することで、その目的や仕組みについて理解させ、メリットデメリットに気づきやすくする。</li> <li>・3者間契約や複数の機能をもつカードを紹介し、確かな知識や情報の取得と社会への関心を高める必要性をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売方法</li> <li>・支払方法</li> <li>・デジタル庁</li> <li>・クレジットカード</li> <li>・デビットカード</li> <li>・電子マネー</li> </ul> <p>【関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会：私たちの消費生活</li> </ul>
4	<p>○修学旅行で金銭管理 【学活・学校行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォンツとニードを考えて計画を立てさせる。</li> <li>・現金と交通系ICカードの使い分けを計画する。</li> <li>・自分にとって幸せなお金の使い方について考える。</li> <li>・修学旅行で実践する。</li> </ul> <p>実践してみて幸せなお金の使い方がわかったよ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの授業の内容を生かして計画させることで、学びを生活に生かし実践力を高めさせる。</li> <li>・計画通りにいなくても、自分の消費生活の新たな気づきや考えの再構築となるように振り返りをさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォンツとニード</li> <li>・安全性と機能</li> <li>・アフターサービス</li> </ul> <p>【関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事：修学旅行</li> </ul>

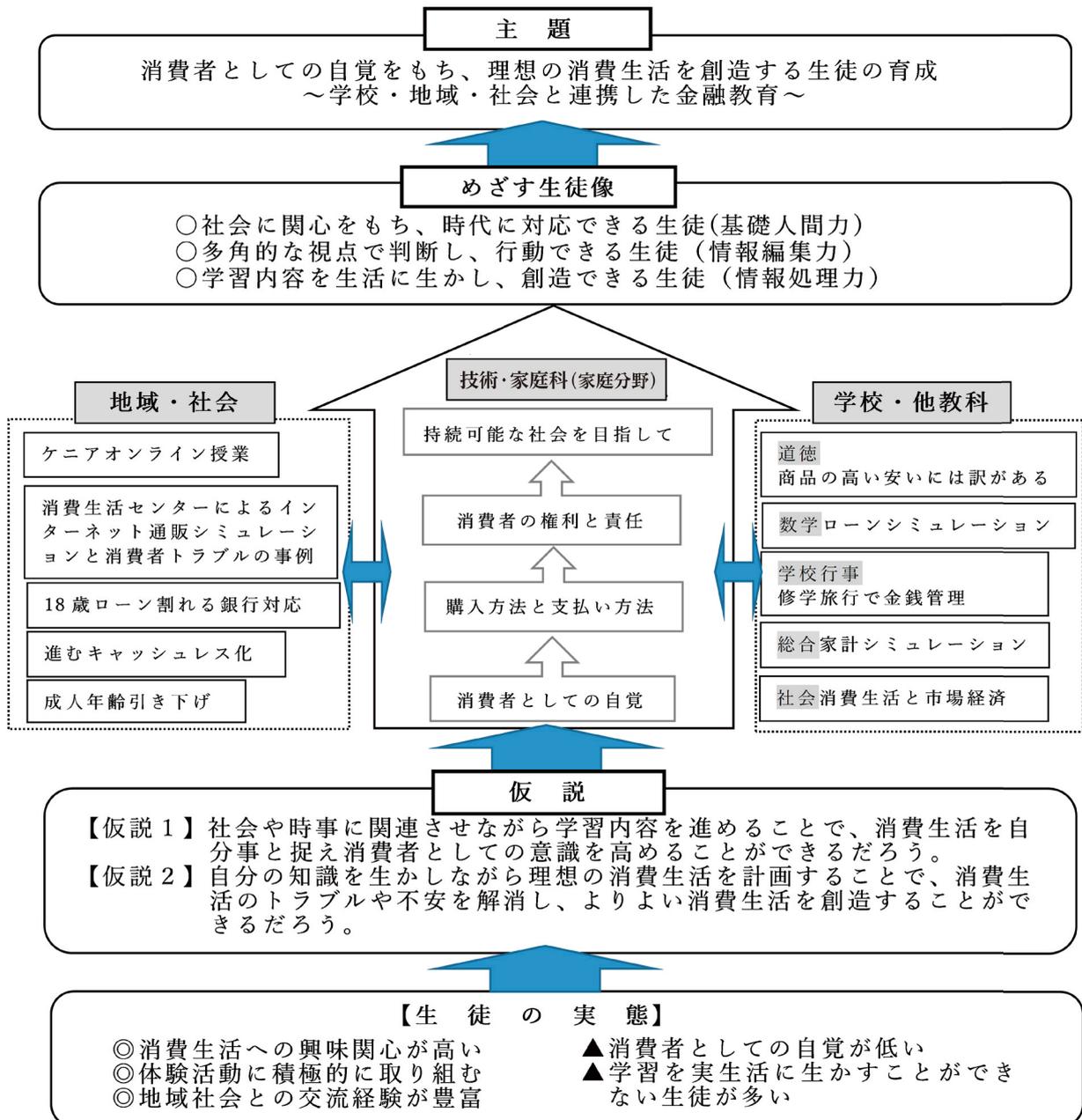
時数	授業展開	指導内容	学習内容
5	<p>○ローンシミュレーション【数学・技術・家庭(家庭分野)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数学の一次関数を利用してローン計算をする。</li> <li>4つの車から将来ほしい車と、4つの金融機関からローンプランを1つずつ選び、タブレット端末に金額や金利を入力してローンシミュレーションをする。</li> <li>他のプランの金利や違う値段の車を選択すると、利息や総額がどのように変化するかを確認する。</li> <li>クーリング・オフ制度が使える場合を判断する。</li> <li>理想の消費生活を考えて熊手チャートを作成する。</li> </ul> <p>【時事資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金融機関のローンチラシ(マイカーローン、教育ローン、カードローン)</li> <li>新聞記事「18歳ローン 割れる銀行対応」<sup>7)</sup></li> </ul> <p>複雑な支払方法でトラブルにあわないかな</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>過年度に学習した数学の一次関数を利用して、学習内容を生活に生かし、学習する意味や価値に気付かせる。</li> <li>自分の好きな車や将来ほしい車を選ぶことで、将来の消費生活を模擬体験し経験値を高めさせる。</li> <li>タブレット端末を使い、数値を変えて利息や総額の違いをグラフや数値で認識させ、ローン契約の際の判断力を身に付けさせる。</li> <li>18歳は成人であっても社会的には未熟であることに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3者間契約</li> <li>ローン契約</li> </ul> <p>【関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数学：一次関数の利用</li> </ul>
6	<p>○インターネット通販シミュレーション【社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>契約についてのクイズをする。</li> <li>クレジットカードのレプリカを使って、通信販売シミュレーションをする。</li> <li>商品が届かない場合の対応法を考える。</li> <li>消費生活センターの職員から最近の消費者トラブル例を聞く。</li> <li>消費者トラブルの解決方法を知る。</li> <li>消費者のための法律や制度を知る。</li> <li>消費生活に関する質問をする。</li> </ul> <p>【時事情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期購入トラブル</li> </ul> <p>不安ばかりではなく消費者としてもっと責任をもたなければいけない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費生活センターの相談員による授業を設定することで、学びと社会をつなげる。</li> <li>タブレットを使って商品を選択し契約することで、消費者トラブルを自分事と捉えさせる。</li> <li>ワンクリック詐欺や規約を読まないなど、インターネット通販でよくある消費者トラブルを実際に体験することで経験値を上げる。</li> <li>若者に被害が多い事例を知り、消費生活センターに相談する体験をして、身近な大人や専門家に相談できるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者トラブル</li> <li>悪質商法</li> <li>特定商取引に関する法律</li> <li>クーリング・オフ制度</li> <li>消費者庁</li> <li>国民生活センター</li> <li>消費生活センター</li> </ul> <p>【関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会：消費者の権利を守るために</li> </ul>
7	<p>○責任ある消費者になるために【技術・家庭(家庭分野)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消費生活に関連した法律や制度を知る。</li> <li>日時や条件が異なる契約を5つ提示し、クーリング・オフ制度によって解約できる契約かどうか判断する。</li> <li>8つの権利と5つの責任について知る。</li> <li>生活の中の消費者の権利と責任を見つける。</li> <li>熊手チャートを作成する</li> </ul> <p>消費者としての責任ある行動で、自分の消費生活だけでなく社会全体がよくなるんだな</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法律は時代や社会に合わせて変わっていることを伝え、消費者トラブルにあったときの対応だけでなく、トラブルにあわないよう消費者としての自覚を高める必要性を感じさせる。</li> <li>クーリング・オフ制度による解約ができるか判断させることで、制度には条件があり、使える場面が限られることに気付かせる。</li> <li>自転車を買ってトラブルにあう設定から、消費者の意識や行動でよりよい社会になることを実感させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者基本法</li> <li>製造物責任法</li> <li>特定商取引に関する法律</li> <li>国際消費者機構</li> <li>8つの権利と5つの責任</li> </ul> <p>【関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会：消費者の権利を守るために</li> </ul>
8	<p>○フェアトレード『値段の安い、高いには訳がある』【道徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アパレルブランド「RAHA KENYA」の河野理恵代表によるオンライン講話を聞く。</li> <li>オンラインで質問をする。</li> <li>フェアトレード、エシカル消費から消費者の責任を考える。</li> <li>熊手チャートを作成する。</li> </ul> <p>自分の消費生活だけでなく、世界や将来のことも考えて生活したいな</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外の生産者の考えや生活を知り、自分の消費行動が社会や世界につながっていることに気付かせる。</li> <li>生産者や事業者の立場で消費生活を捉えることで、持続可能な社会を具体的に考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エシカル消費</li> <li>消費者市民社会</li> <li>フェアトレード</li> <li>グリーンコンシューマー</li> </ul> <p>【関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳：国際理解</li> </ul>

時数	授業展開	指導内容	学習内容
9	<p>○持続可能な消費生活 【技術・家庭（家庭分野）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの消費生活学習の振り返りをする。</li> <li>・持続可能な消費生活について考える。</li> <li>・理想の消費生活や自立した消費者について考える。</li> </ul> <p>【時事資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読売新聞オンライン「ファストファッションも影響、砂漠に広がる『衣類の墓場』」<sup>8)</sup></li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自立した消費者として、理想の消費生活を送る自信がついたよ</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時のケニアに住む生産者の思いを確認し、時事を導入にすることで、消費者である自分と社会のつながりを再度実感させる。</li> <li>・食生活や消費生活で学習した「持続可能な社会に向けて」で活用した環境に関わるグラフを再度提示することで、学習につながりをもたせ多角的な視点で課題を捉えさせる。</li> <li>・今まで授業ごとに作成してきた熊手チャートを参考に理想の消費生活を考えさせ、今までの学習から自分らしい生活を創造させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDG s</li> <li>・化石燃料</li> <li>・地球温暖化</li> <li>・再生可能エネルギー</li> <li>・循環型社会</li> <li>・3R</li> </ul> <p>【関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術：産業とエネルギー</li> </ul>

資料1 事前アンケート「将来理想の消費生活ができていますか」



資料2 実践構造図



資料3 生徒Aが成人になることが不安と答えた理由(事前アンケート)

少子高齢化社会で財政難な日本に放り込まれることに不安しかない！  
詐欺に巻き込まれそう  
スマホ契約など将来を見ずして判断ができるか

資料4 第1時の生徒Aの振り返り(振り返り用紙)

理想の消費生活ができていますか (数字に○をつける)	振り返り
1 できる 2 どちらかというとき ③ どちらかというときできない 4 できない(不安) 5 わからない	インターネット販売やバーチャル空間での買い物が今後主流になっていくと、契約の成立するタイミングが"あやうや"になってしまい、詐欺や犯罪に巻き込まれる危険が高まりそうで、少し不安になった。

資料5 事前アンケート「消費生活での不安や知りたいことは何ですか」より、第2時の授業の導入で提示した資料

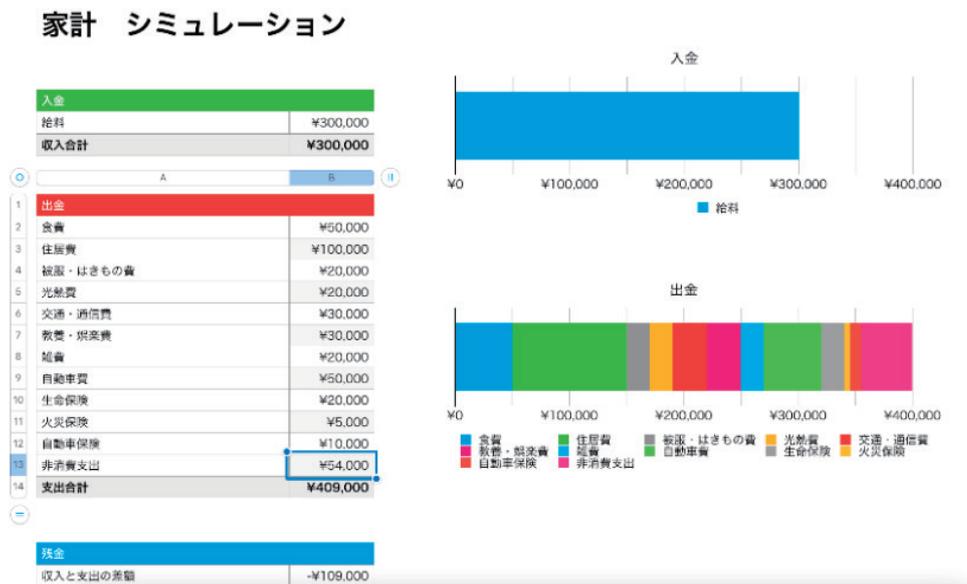
お金の管理をきちんとしないといけないので、できるか分からない。1人暮らしがこわい。

お金のため方、つかい方

契約(スマホなど)の仕方やどのくらいのお金が必要になるのが不安。

自分の払える範囲を把握し、範囲内に収めることができるか不安。

資料6 家計管理シミュレーションの結果(タブレット)



資料7 第2時の生徒Aの振り返り(振り返り用紙)

<p>1 できる                  ② どちらかというとできる                  3 どちらかというとできない                  4 できない(不安)                  5 わからない</p>	<p>生涯どのくらいお金が必要になるのか目安を知ることができたことで、貯金の大切さや家庭を築くことの大切さを新たに前向きな視点で見ることができた。今から将来のビジョンをもつことは進路や価値観を変えることにつながり、安定した生活を送れるようになると思った。</p>
--	---

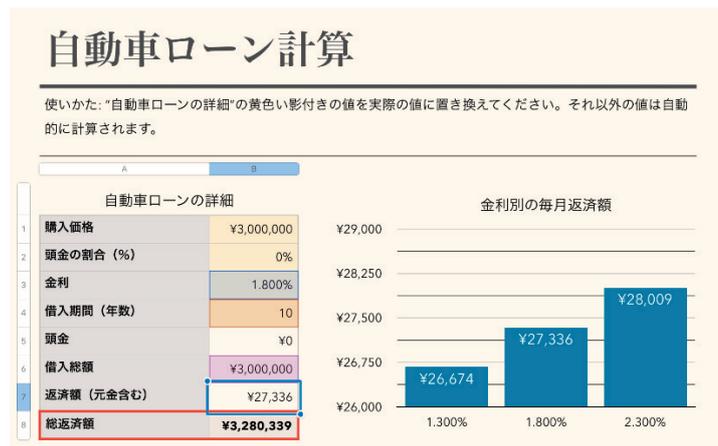
資料8 第3時の生徒Aの振り返り(振り返り用紙)

<p>1 できる                  2 どちらかというとできる                  3 どちらかというとできない                  ④ できない(不安)                  6 わからない</p>	<p>私は貯金が手でお小遣いを自由に使い切ってしまうようなタイプなので、ローンやクレジットカードの仕組みを知るととても不安になりました。ですが、三大支出や固定支出を把握しておけば、安易な支出を避けて必要な時にお金を使えると考えました。</p>
--	---

資料9 修学旅行のお小遣い計画(話し合い)

C1: 家族のお土産っておかしでいいか。  
 C2: 私は家族それぞれに買うよ。  
 C3: 全員に買ったならその場で楽しむお金が少なくなるよね。私も家族に1つでいいや。  
 C4: 遊園地でファストパス買う?  
 C3: 時間をお金で買うのはもったいない。遊ぶ時間も楽しいじゃん。  
 C2: お金ももったいないよ。みんなでそろいのもの買って写真撮ろうよ。  
 C1: じゃあカチューシャそろえる?  
 C2: 絶対買おうよ。  
 C4: その時はいいけど、家で絶対使わないけどね。後悔しそう。  
 C2: 確かに高い。けどカチューシャつけてみんなで写真撮りたい。  
 C3: 修学旅行ってウォントとニードのバランスが難しい。  
 T1: 全部使う計画ではなく、貯蓄と同じように、予備費を設けるのもその場で幸せなお金の使い方ができるかもしれませんね。

資料10 ローンシミュレーション(タブレット)



資料11 第5時の生徒Aの振り返り(振り返り用紙)

<ol style="list-style-type: none"> <li>1 できる</li> <li>② どちらかというとできる</li> <li>3 どちらかというとできない</li> <li>4 できない(不安)</li> <li>5 わからない</li> </ol>	<p>契約は基本的に取り消せないものだと知って責任の重大さを 感じた一方で「ネットでの契約のルール」や「違法商法」を知っておく ことで自分を守ることができると分かり少し安心した。正しい 知識をもつとは周りの人を助けることにもつながると思っ た。実際に被害に遭った人の状況を調べたいと思った。</p>
---	---

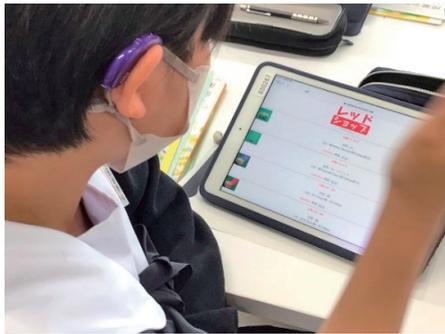


写真1 通販シミュレーションで買い物



写真2 通信販売サイトの規格を紹介

資料12 第6時の生徒Aの振り返り(振り返り用紙)

<ol style="list-style-type: none"> <li>① できる</li> <li>2 どちらかというとできる</li> <li>3 どちらかというとできない</li> <li>4 できない(不安)</li> <li>5 わからない</li> </ol>	<p>偽サイトの特徴や通信販売の危険を知ったことで注意す べきポイントが明確になった。一方で知っているだけでは被害を 避けることはできないから、今は自分一人で利用する機会が なくても、注意事項を読む癖をついたり家族と知識を共有 したりして、成人してからも困らない消費生活を今から目指そうと思った。</p>
---	--

資料13 第7時の生徒Aの振り返り(振り返り用紙)

<ol style="list-style-type: none"> <li>① できる</li> <li>2 どちらかというとできる</li> <li>3 どちらかというとできない</li> <li>4 できない(不安)</li> <li>5 わからない</li> </ol>	<p>お店の人に質問することは「知らされる権利」によって保護されてい るからためらう必要はないと学んだ。また、批判的意識と関心 と今までは「クレーマー」のイメージがあったが、消費者の責任である と学んで、どの商品に対してもただ使っただけではなく自分の意識を 持つことが社会をより良くするために必要だと分かった。</p>
---	---

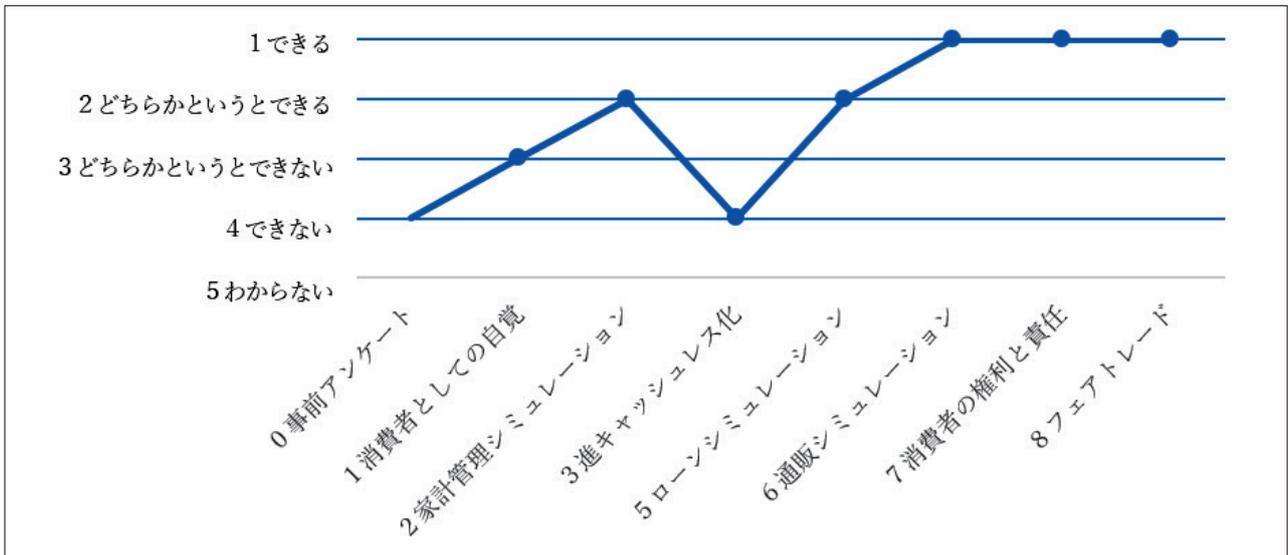


写真3 オンラインでの質問

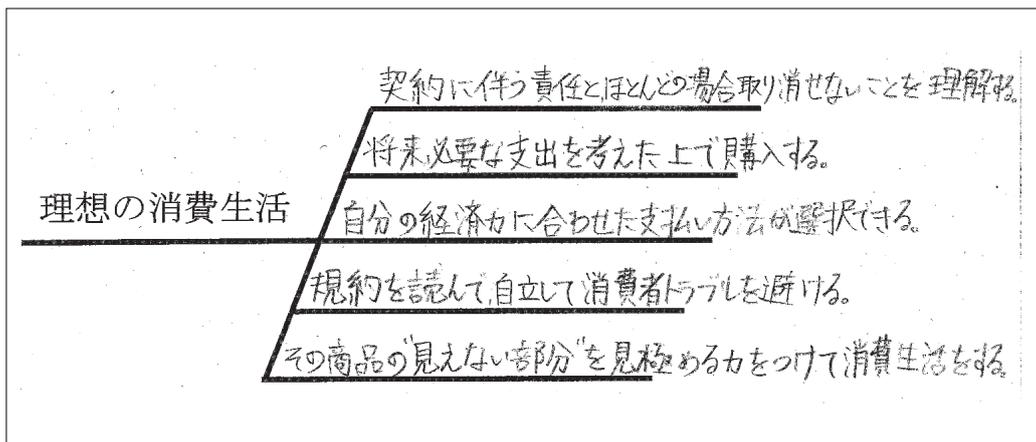
資料14 第8時の生徒Aの振り返り(振り返り用紙)

<p>① できる 2 どちらかというとできる 3 どちらかというとできない 4 できない(不安) 5 わからない</p>	<p>知らないことを知ることによってみんなにも判断が変わると気付いて驚くと同時に何かしたいと強く思えた。ネットで調べるだけでもフェアトレードが分かってきてまずは明日お菓子を買うときに調べることから始めようと思う。消費生活の規模が大きく、なやまなくても見えていない世界に目を向けられる人になりたい。</p>
--	--

資料15 各授業終了時のアンケート「将来理想の消費生活ができていますか」の生徒Aの回答



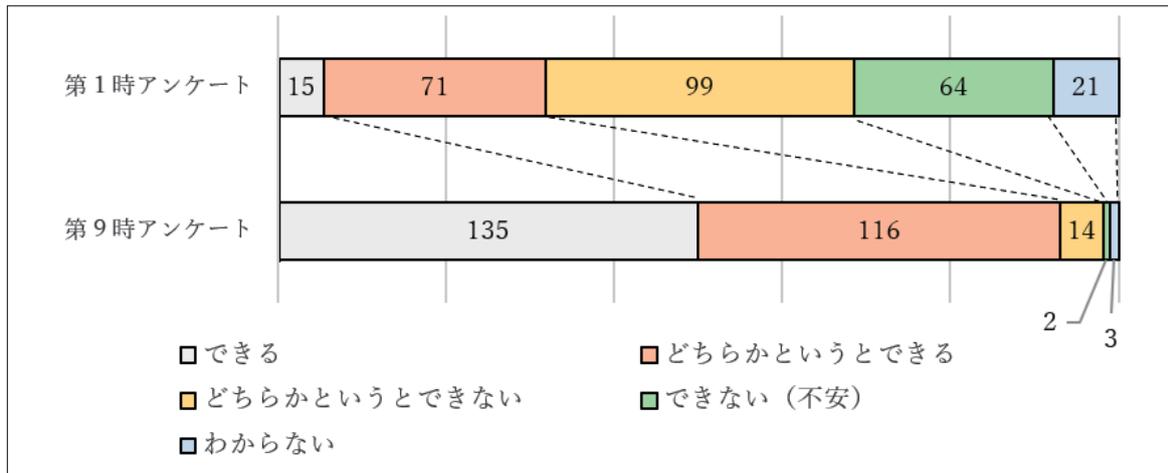
資料16 生徒Aの熊手チャート(ワークシート)



資料17 第生徒Aの振り返り(ワークシート)

年金体制が崩壊しかけていたり、悪質商法の手口が増えてきている現代社会で自立した、理想の消費生活に必要なことは次の2つだと考える。1つは少し先の未来まで見通しをもつことだ。ローンの例で言えば、支払完了時には実質どれだけ支払うのかや、自分の収入、経済の動きなど幅広い視点から考え、未上で行動することが大切である。もう1つは手間を惜しまないことだ。規約をくまなく読んだり商品を生産する企業の実態について調べたりすることは、消費者トラブルの防止やエシカル消費にとって重要だと考える。

資料18 アンケート「将来理想の消費生活ができていますか」の第1時と第9時比較



資料19 授業後アンケート「消費者としての自覚が高まりましたか」

